

全国に広がる 思春期研究会

① あおもり思春期研究会

今号より、全国の「思春期研究会」の方々に、各団体の活動をご紹介いただきます。思春期保健の推進には、思春期保健相談士をはじめ職域を超えた地域全体での連携が不可欠です。本会では、全国の思春期研究会の取り組みに期待を寄せています。

地域でネットワークを構築

I. 研究会発足まで

①県医師会・教育委員会の取り組み
一九七六年青森県内で十代女性の売春・出産事件が報道され、これがきっかけになり、県医師会、県産婦人科医会、県スポーツ健康課で協議会が発足、八〇年から性教育が始

まりました。八一年から六つの教育委員会管内に産婦人科医が一人ずつ校医として配置され、性教育事業を行ってまいりました。また、年一回教育関係者を対象に性に関するセミナーを行っています。
②保健行政での取り組み
保健所を中心にして、性教育七ツル事業を行ってきました。

た。東青地域では五か年計画で、全ての中学校に性教育を行いました。その後継事業を行う学校はありませんでした。青森市では健康増進課を再編し健康増進センター「元氣プラザ」に分離しました。その後中核市になり、保健所を中心として中学校を対象としたウォークラリーというプログラムを行ってまいりました。二〇〇六年に県では「青



市民公開講座等、活発に開催

<あおもり思春期研究会>

代表 平岡友良
設立 2007年5月20日
会員数 69人
連絡先 〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1 青森県立保健大学内
あおもり思春期研究会事務局 (根布谷・山本・佐藤)
TEL: 017-765-2056 FAX: 017-765-2057
E-mail teensmile@uhw.ac.jp
H P http://www.geocities.jp/aomorisisyunki/index1.htm
(2008年6月30日現在)

森県思春期保健対策検討委員会」を開催し、思春期教育の重要性と思春期支援ネットワークの重要性を答申しました。
③大学での取り組み
青森県立保健大学では、二〇〇三年より「十代の性」研究会で十代の女性の人工妊娠中絶減少に向けた支援モデルの構築研究を行っています。
④助産師会、看護協会での活動
日本助産師会青森県支部では二〇〇三年より「あかり」というサークルで出前性教育を行っています。看護協会では二〇〇四年より「思春期応援隊」として、性教育活動を行っています。

これらの活動を包括し、ネットワーク化することで、情報交換やスキルアップをはかる目的で、二〇〇六年五月に「あおもり思春期研究会」を発足させました。初代会長は新道幸恵青森保健大学学長(当時)、会員数は五十一名でした。世話人は中学・高校の養護教諭、校長、市や県の保健師、保護者、大学教授、産婦人科医などで構成しました。

II. 研究会の活動

研究会の活動は年二回の市民公開講座、年一回の会員向けの例会、電話相談、ピア・カウンセリング活動、広報活動などを行っています。

①市民公開講座

第一回「保健行動論から見た思春期の性」徐淑子氏(新潟県立看護大講師)
第二回「家族療法とフリーフセラピー」推野睦氏(大妻女子大非常勤講師)、パネルティスカッション「性や心の問題に対する友人や家族の関わりについて」パネラー||高校養護教諭、市PTA、県立保健大学生、高校生

木久美子氏(元氣プラザ保健師)、「若年妊娠に関する追加報告」平岡友良
第四回「メディア論」平岡友良、「出会い系サイトにおける犯罪事例」伴孝文氏(中学校教頭)
III. 研究会活動を通して
青森県は医師の性教育は長い歴史がありますが、世界エイズデーには取り組みが不十分で遅れた部分も多く見られます。自治体の保健に関する予算も削られており、思春期保健の分野でも事業が困難になってきています。このような状況の中で研究会を発足させ、少しずつ輪が広がっているのは喜ばしいことです。
研究会発足前は、医師・助産師・保健師などが様々な分野で性教育活動をしていましたが、学校の教員・養護教諭・PTAとともにネットワークを構築できたことが、研究会を立ち上げた一番の成果だと思えます。昨年は「あおもり思春期研究会」の名前をあらわに広めることができ、今後は自治体からの委託事業も含め、新たな事業を展開していきたいと考えています。ただ、研究会の財政基盤は弱く、補助金のある年は豪華になり手弁当で活動している状況です。今後活動を広げていくことにより、会員を増やし、活動を発展していきたいと考えています。
(あおもり思春期研究会会長 平岡 友良)

第三回「十代妊娠の現状」鈴